

県外派遣報告書

（社）栃木県バスケットボール協会 審判委員会

大会名	2024年度第5回全国U15バスケットボール選手権大会	開催地	東京都調布市
報告者名	岡 龍哉	派遣期間	1月4日(土)～1月6日(月)

1月4日(土)

審判員	岡龍哉(栃木)・上阪紘也(東京)・上田侑平(高知)	報告者	岡龍哉
カード	長崎ヴェルカU15(長崎) vs 名古屋ダイヤモンドドルフィンズU15(愛知)		
コート	Cコート	主任	加藤暁生 氏
<p>PGCではメカニクスの確認を中心に話を進めた。プライマリーでの判定を大切に、起きたものを丁寧に判定していくこと。選手のフェイクも予想されるので、確認して根拠を持って判定することを意識して試合に入った。試合ではお互い1対1を中心とした攻めの中で、クルーそれぞれがプライマリー内での判定に取り組めたものがあった。試合後、加藤氏からは、【信頼の積み重ね】をしていくためのコーチ・選手とのコミュニケーションの方法に関してアドバイスをいただいた。審判が細かい気遣いをしているところを、コーチに気づいてもらうことで、正しい判定と合わせて信頼感が増すので、これからの自分の取り組みに取り入れることができるようにしたい。試合は選手の熱の入ったプレーで盛り上がるものとなった。選手やチームから信頼される審判員を目指すためにも、プレー一つ一つをもっと確認して判定の精度を上げていきたい。</p>			

1月5日(日)

審判員	武藤陽子(茨城)・岡龍哉(栃木)・山本海土(広島)	報告者	岡龍哉
カード	京都精華学園中学校(京都) vs 新潟清心女子中学校(新潟)		
コート	Aコート	主任	武藤陽子 氏
<p>PGCでは両チームの中心選手の特長について確認した。特にビッグマンに対するの守り方、オールコートプレスが仕掛けられた時のクルーの準備などを確認した。試合では身長差によるリバウンドの差が出ていた。ビッグマンのショットに対する影響のあるコンタクトを見極めてクルーで笛を入れていくようにした。新潟の小さい選手がプレスをかけた時にいくつかファウルとして取り上げた方がよかったものがあった。また、京都精華のコーチが選手に対して大きな声で指導しているのに対し、声のかけ方など気をつけてもらうようコミュニケーションできるとよかった。判定以外でも、タイムアウト明け選手をコートにスムーズに呼び、交代が多かったので確認しながらゲームを進めることを意識した。自分のプライマリーの中で起こっているイリーガルなコンタクトに対して前半からもっと笛を入れていかなくてはいけない場面があった。プレーを長く見て選手にどう影響があったのかを的確に判断できていないのが原因だった。点差の離れたゲームになったが、新潟清心は最後まで諦めず、京都精華も初戦での入りを大切にしながらの圧巻のプレーだった。</p>			

1月6日(月)

審判員	関谷洋平(東京)・岡龍哉(栃木)・松尾英(佐賀)	報告者	岡龍哉
カード	四日市メリノール中学校(三重) vs 金沢学院クラブU15(石川)		
コート	Aコート	主任	岩月遼司 氏
<p>PGCではメカニクスの確認とチームの特徴に関して意見を出し合った。試合では、白34番が体格とスキルを活かし攻撃や守りでリードしていた。そこに対する守り方でイリーガルなものもクルーで笛を入れた。逆に白34番が無理にリバウンドに飛び込み接触したプレーでファウルを入れていけばよかった。主任からは両チームのエースの特徴を意識しながら判定していたことはよかったと話があった。赤が4Qにディフェンスを強めてきたが、ファウルを吹くタイミングが早い場面があったので、もう少し赤にディフェンスのチャレンジをさせてあげてもよかった。また、ショットクロックバイオレーションで、クロックを正しく修正できなかったため、プレーが止まった時は特に、自分の中で時間を覚えておかなければ修正できないと反省した。</p> <p>今回の大会で、プライマリー内での正しい判定がチームへの信頼につながるが実感できた。しかし、まだまだ、コート上で自分は正しい判定ができず試合をリードできていないと感じた。その原因を、映像の見方を含めて自分でもっと研究していかないといけないと感じたので、悔しい思いを次に繋げるためにも振り返りを大切に時間をかけていきたい。</p> <p>今大会の派遣に際しまして、ご尽力いただいた梶審判委員長をはじめとする県内審判員の皆様、大会運営等でお世話になりました東京都バスケットボール協会の皆様に御礼を申し上げ、派遣報告とさせていただきます。</p>			